

陳 情 文 書 表

受 理 番 号	陳 情 第 38 号
件 名	新潟市美術館におけるカビ発生問題の総括並びに改修等について
要 旨	<p>新潟市美術館におけるカビ発生問題について、その原因は美術館の建物の老朽あるいは劣化等によって外気が流入しやすくなっていたことによると、「新潟市美術館の評価及び改革に関する委員会」が提言しています。</p> <p>これを契機として、今後、改修等に要する予算が新潟市議会で審議される見通しになっています。しかし、カビで問題となった土壁状の作品が、なぜ、だれが、どのような経緯（指示・決裁経路）で認め、展示が実行されたものなのかという、最も根本的な背景が究明されていないように思われます。</p> <p>平素から、美術館の市民ギャラリー等を利用する市民は、腐敗する可能性のある展示物を持ち込まないなど、公共性の観点から節度とルールを守ってきました。しかしながら、昨年度の「水と土の芸術祭」では、市民感覚から見ても信じがたい材料を持ち込まれ、制作、展示され、その結果、当然の帰結として公共財産を汚損の危機に導いた状況を市民は目の当たりにしました。</p> <p>また、「新潟市美術館の評価及び改革に関する委員会」は、第1回目の冒頭から、カビや虫の問題を事務局にゆだね、北川フラム前館長以前の同館の運営のあり方を主たる問題として議論しています。</p> <p>しかしながら、委員会では、事実と異なる発言が幾つか確認されており、市民には真実が見えにくくなっています。市民は、正しい状況の把握と、確かな信頼回復の道を求めています。</p> <p>特に、所蔵品や寄託作品等に疑義があるとして、原則返却する方針を篠田市長は表明していますが、北川前館長就任以前の学芸員からのヒアリングが行われておらず、作家の方々との信頼や経緯が不明のままです。また「寄託等」「借用品」についても、委員自身が実態を把握しないまま不確実な発言をしていることは疑問に思います。</p> <p style="text-align: right;">（裏面につづく）</p>
付 託 年月日 委員会	<p style="text-align: center;">第 1 項 第 2 項</p> <p style="text-align: right;">} 文教経済常任委員会</p>
受 理	平成 22 年 6 月 10 日 第 1 2 7 号

このまま予算が執行されれば、所有者からの不信を買い、新潟市美術館の社会的信用の失墜が一層深刻になることが十分に予想されます。

つきましては、関係各位に格段の御配意を切にお願いし、下記の事項について陳情申し上げます。

記

- 1 市は、新潟市美術館でのカビの発生事件の経緯（指示・決裁経路）を明らかにし、施設の適切な使用のあり方についての総括を行うこと。
- 2 新潟市美術館の評価及び改革に関する委員会は、北川前館長が就任する以前の学芸員等から速やかに事情を聴取すること。